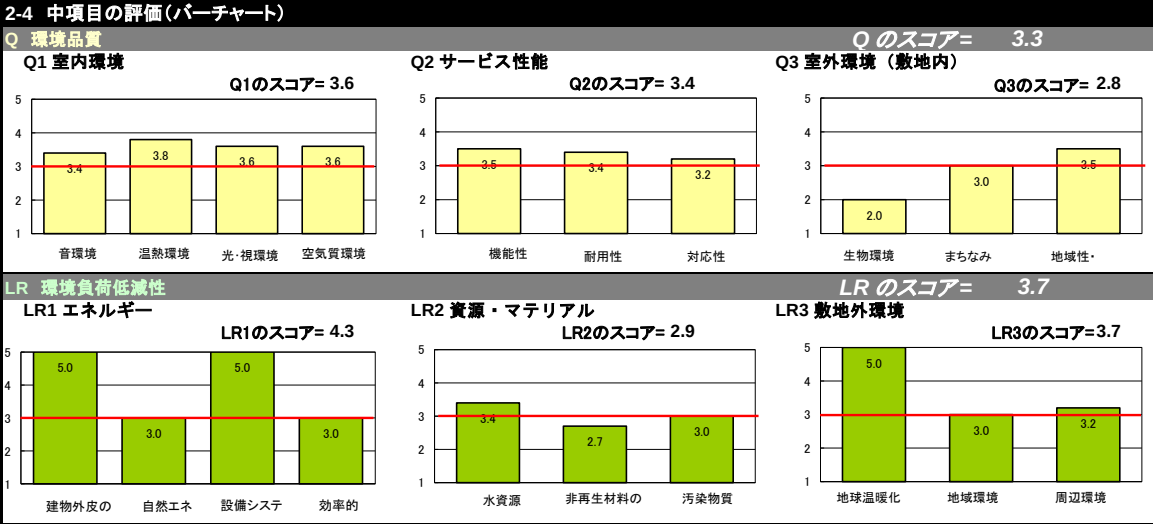
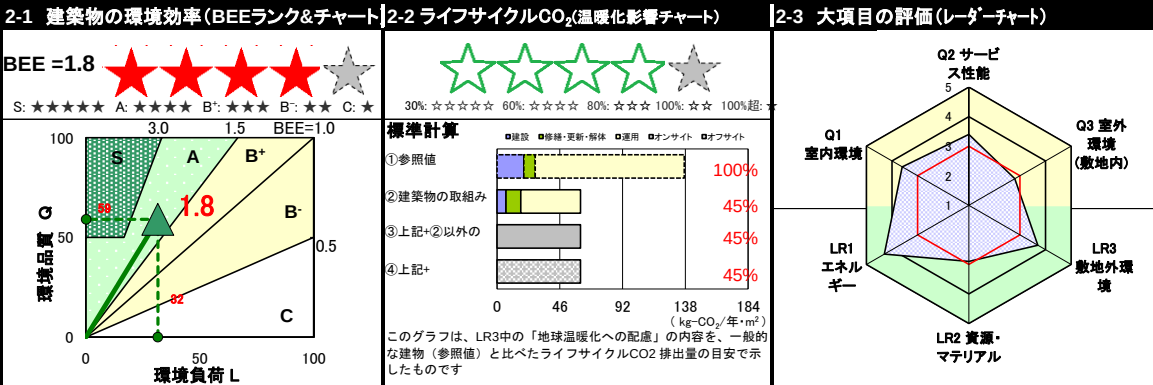




評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)刈谷市神田町開発計画 新築工事	階数	地上15階
建設地	愛知県刈谷市神田町1丁目-3,14,15,16,17,18,19,120-1,21,22,23,24,25,26,28,30,31,32,44-12	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	475 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年3月 予定	評価の実施日	2024年10月24日
敷地面積	4,230 m ²	作成者	森 南葵
建築面積	1,196 m ²	確認日	2024年10月24日
延床面積	9,689 m ²	確認者	林 信貞



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
5.0	2.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.9	1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	79.5 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
＜外装材に使用した地域性のある材料＞	なし
＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
【仮称】刈谷市神田町開発計画 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体	
配慮項目	教自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質										3.3	
Q1 室内環境						0.40			-	3.6	
1 音環境				0.1	4.0	0.15	3.4	3.4	1.00	3.4	
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.50		3.0	0.50		
1.2 遮音				0.5	5.0	0.50		3.8	0.50		
1 開口部遮音性能			T-2を採用		5.0	1.00		5.0	0.30		
2 界壁遮音性能					3.0	-		3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			Lr-45		3.0	-		4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-		3.0	0.20		
1.3 吸音					-	-		-	-		
2 温熱環境				0.3	3.0	0.35	4.0	4.0	1.00	3.8	
2.1 室温制御				1.0	3.0	1.00	4.0	4.0	1.00		
1 室温				3.0	-	-		-	-		
2 外皮性能			住宅設計性能評価 温熱等級5	3.0	3.0	1.00		4.0	1.00		
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-		-	-		
2.2 湿度制御				3.0	-	-		-	-		
2.3 空調方式				3.0	-	-		-	-		
3 光・視環境				0.2	3.0	0.25	3.7	3.7	1.00	3.6	
3.1 昼光利用				0.3	3.0	0.30	3.5	3.5	0.50		
1 昼光率			昼光率1.70%	3.0	-	-		4.0	0.50		
2 方位別開口					-	-		3.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	1.00		3.0	0.20		
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30	4.0	4.0	0.50		
1 昼光制御			カーテン+庇を設置	5.0	3.0	1.00		4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	3.0	0.15		-	-		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		-	-		
4 空気質環境				0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00	3.6	
4.1 発生源対策				0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63		
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆使用	3.0	4.0	1.00		4.0	1.00		
4.2 換気				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	-	-		3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
4.3 運用管理				-	-	-		-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-		-	-		
2 喫煙の制御				3.0	-	-		-	-		
Q2 サービス性能					-	0.30		-	-	3.4	
1 機能性				0.4	3.4	0.40	3.6	3.6	1.00	3.5	
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	4.0	4.0	0.60		
1 広さ・収納性			CAT5Eを装備	3.0	-	-		-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-		4.0	1.00		
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	1.00		-	-		
1.2 心理性・快適性				0.3	4.0	0.30	3.0	3.0	0.40		
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-		3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-		-	-		
3 内装計画			計画に基づく事前検証を行う	3.0	4.0	1.00		3.0	0.50		
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30		-	-		
1 維持管理に配慮した設計			維持管理に配慮した取り組みについての該当項目が7	3.0	4.0	0.50		-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50		-	-		
2 耐用性・信頼性				0.3	3.4	0.31	-	-	-	3.4	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20		-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	4.3	0.33	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数			住宅設計性能評価 劣化等級3	-	5.0	0.23		-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	耐用年数30年以上	-	5.0	0.23		-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			耐用年数20年以上	-	4.0	0.09		-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08		-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			2種以上にB以上を使用	-	5.0	0.15		-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23		-	-		
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19	-	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20		-	-		
2 給排水・衛生設備			節水型器具の採用 災害時の配慮	3.0	4.0	0.20		-	-		
3 電気設備				3.0	3.0	0.20		-	-		
4 機械・配管支持方法		②		3.0	3.0	0.20		-	-		
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20		-	-		

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			②		-	-	-	3.6	3.6	0.50
1 階高のゆとり									4.0	0.60
2 空間の形状・自由さ					3.0	-	-		3.0	0.40
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	-		3.0	0.50
3.3 設備の更新性					1.0	3.0	1.00			-
1 空調配管の更新性						3.0	0.17			-
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17			-
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11			-
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11			-
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22			-
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	4.0	0.50		-	
				評価ポイントの合計値が12ポイント						
LR 建築物の環境負荷低減性						-			-	3.7
LR1 エネルギー						-	0.40		-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				住宅性能評価 5等級	3.0	5.0	0.33		-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.17		-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.66	3.0	5.0	0.33		-	5.0
4 効率的運用					0.1	3.0	0.17		-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-		-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	-		-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	-		-	
集合住宅の評価					1.0	3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング					-	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	2.9
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水				節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	1.00		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	-	-		-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63		-	2.7
2.1 材料使用量の削減			② 独自		-	2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				-	-	3.0	1.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み				独自		3.0	4.0	0.24		-
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68		-	
1 消火剤					-	-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	1.00		-	
3 冷媒					3.0	-	-		-	
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	3.7
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率45%	-	5.0	0.33		-	5.0
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			独自	適切な駐車場の確保	-	5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		-	
2 振動			独自		-	-	-		-	
3 悪臭					-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制					-	1.0	-		-	
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				広告物無し	-	5.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

(仮称)刈谷市神田町開発計画 新築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいも版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策					5.0	
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10		2.9	
② 資源の有効活用						
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.09			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09			
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19			
③ 敷地内の緑化					2.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:79.5%/建物緑化:0%		
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし		
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし		

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)刈谷市神田町開発計画 新築工事

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 計画建物は刈谷駅の南東に位置し、市街地の中にある。道路・線路の騒音を緩和できるよう、住棟を十分にセットバックした配置計画とした。また、豊かな植栽を設け、敷地内の遮熱効果を得ると共に潤いのある住宅環境に務めた。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 遮音サッシT2を採用して音環境に配慮し、省エネ5等級・空気環境3等級を確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体劣化3等級など、建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活環境変化やニーズに伴い柔軟に対応が出来、生活にゆとりを与えられるように努めた。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物と道路境界との間、駐車場と住棟との間に緑地や中高木を多く設け、生活環境に潤いを与えられるように努めた。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ5等級の断熱仕様、共用部位分の照明を一部LED照明を採用し、環境負荷の低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型便器を採用し水資源保護に努め、フロン・ハロンの不使用により、環境に配慮した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺環境に対し、適切な建物離隔距離をとり、緑化や中高木を配置し、環境悪化の低減を図っている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。